

【実践報告】

「教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 佐伯 育郎 准教授 長 澤 希

講師 西村 豊

教職センター 特任講師 小川 雅史

はじめに

本科目は、小学校教員を目指す学生が、実際の教育現場に出て4週間の観察・参加・授業実習を行う。実習を通して、子どもの実態を理解し、現場の教員と学校の実態、地域との関係等々を体験的に理解するとともに、教師としての使命を自覚し、教育に対する意欲を高め、教師として必要な資質能力の向上に向けて自己の学習課題を明らかにすることを目的とする。

本科目の到達目標は、①教職に対する自覚、②児童一人ひとりの価値の尊重、③他者の理解と自己の変革、④教材研究、⑤授業展開、⑥児童の集団活動の理解と指導、⑦事務・実務能力、以上7項目である。この7項目で実習校に実習状況を評価していただいた結果に、事前事後指導に取り組んだ結果を加えて、4人の担当教員によって総合的に評価する。

1 2023年度の学修内容とスケジュール

日 時	概 要
7/19(水)5コマ	【教育実習直前説明会①】 事前訪問・期間中の詳細、提出書類配付（実習記録含む）、グループ・班編制、巡回指導、日誌の書き方
8/ 3(水)5コマ	教育実習Ⅰ終了後【教育実習直前説明会②】 目標作成開始、班打ち合わせ、班別のテーマ（共通課題）報告、後期の事後学修スケジュール、補講について
8/10(木)まで	①班別のテーマ（共通の課題）、②「事前学修計画」、③「教育実習にあたっての目標」Teams「教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）2023」ファイルに提出。①②は班別ファイル、③は教員別ファイルに提出。
8/25(金)まで	事前指導担当教員がTeams上で添削する。添削内容を確認したら、各自で修正する。
実習まで	・巡回指導担当教員への挨拶（実習目標も学内メールで送付する） ・模擬授業（班、もしくは教育実習Ⅰのグループなどで）、教材研究、指導案、教育研究（班別のテーマについての事前研究）など ・実習校との直前打ち合わせ
実習 8/28～	教育実習開始（11/20が最終終了日） 【事後学修（実習報告会）予定】121教室 実習報告会1回目 A（67人）：10/27(金)5コマ 実習報告会1回目 B（25人）：12/ 4(月)5コマ 班で設定したテーマをもとにして、実習で学んだことを共有する。班での議論を参考にして研究成果をまとめ、実習報告書（教育方法、教材、子ども、教員、学校の問題について、班の討議や資料調査などを通して深く認識し、自分の課題・解決策を探る）を作成する。

実習 8/28 ～	実習報告会 2・3 回目 AB合同 (92人)：①12/18(月)5 コマ，②12/22(金)5 コマ (両日も121教室) 実習報告書をPowerPointにまとめて発表する。Glexaにも実習報告書・PowerPointを掲示する。質疑応答の時間も設け，議論する。
12月末まで	【教育実習記録の提出・Glexa実習報告会の振り返りへの回答】
2月末	教育実習担当教員の確認後，教育実習記録の返却（教職センターへ取りに行く）

2 改善点と今後の課題

(1) 事前学修

令和5年度の事前学修は，令和4年度の内容と方法を踏襲した。班編成は，実習期間・実習地域に配慮し，教員採用試験に向けた取組へとつなげるようにした。Microsoft Teamsを使用して，班別テーマ（共通課題）と事前学修計画，個人の実習目標を班で共有するとともに，4人の担当教員で目標を添削した。個人目標・課題は，以下の学生のように数値化・具体化した，令和4年度よりも目標数を減らし，実習中に達成できるように改善した。

教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）の個人目標・課題（令和5年度・実習生の例）	
1. 児童，学習環境の理解	1-1 授業中や休み時間などに積極的に児童とコミュニケーションをとる。 1-2 児童と会話をする時に話すスピードや言葉遣いや目線を合わせることに気をつける。
2. 授業力の向上	2-1 理解が遅れている児童や授業に集中できていない児童への支援方法や声かけを観察し，実践する。 2-2 児童が主体的に学ぶことができるためにどのような工夫がされているのか工夫点を三つ以上見つける。
3. 学校，学級経営	3-1 コミュニティスクールについて，実際にどのような取り組みをされているのか確認する。 3-2 児童一人一人が過ごしやすい環境となるようにどのような工夫がされているのか三つ以上見つける。

(2) 事後学修

令和4年度は，実習生をA・Bの2グループに分け，各グループが2コマ，計3コマの実習報告会を実施した。実習報告会では，班での議論を中間報告書にまとめ，Glexaに設けた掲示板で共有し，ネット上で意見交換をした。2回目の実習報告会では，班でGlexaのコメントを共有しながら，個人で最終報告書を仕上げる準備を行った。最終報告書は，班のテーマや議論を踏まえて，実習で学んだことについて自分の実習経験を中心にして個人でまとめた。しかし，Glexaによるネット上での意見交流が主体であり，対面で一つの教室に集まる意味が薄れている点が課題であった。班による中間報告書の後に，個人による最終報告書という学修の流れ，他学年の学生が参加しないことなど，事後学修もあり方を再検討する必要がある。

そこで，令和5年度は実習生をA・Bの2グループに分け，各グループが3コマ，計4コマの事後学修を実施した。実習報告書は，班別の実習報告書のみに絞り，個人の最終報告書を廃止した。その代わりにGlexaでの個人振り返りを設けた。1回目の実習報告会は，令和4年度と同様A・Bグループ別にして，班別テーマ（共通課題）をもとに実習中の事例を班内で交流し，実習報告書を作成する準備を行った。2・3回目の実習報告会は，A・Bグループ合同で，対面によって行う形式にした。実習報告書の内容をMicrosoft PowerPointのスライドショーにまとめて班ごとに発表し，実習生全体

で質疑応答を行った。一つの教室に全員が集まって議論するコロナ禍以前の形式に戻した。実習報告書とスライドショーは、PDFにしてMicrosoft Teamsで共有した。少数ではあったがMicrosoft Teamsによって他学年の学生も参加した。

(3) 今後の課題

令和5年度では担当教員の進行によって、2・3回目の実習報告会を行ったが、今後は実習生主体での進行も検討していきたい。他学年の参加も少数であったため、学生への広報のあり方も改善していきたい。

令和5年度も、実習校の「教育実習評価票」を基礎として、教育実習記録の内容と事前事後の学修・提出課題とを参照しながら、4人の担当教員によって単位認定に関する評価を確定させた。詳述は避けるが、実習生によっては教育実習への取り組み方に課題が生じてきているため、今後も事前・事後学修を改善・充実させる必要がある。



【2・3回目の実習報告会の様子（12/18(月)、12/22(金)）】